

教員による取り組み

【出前講座】

大学の研究成果を社会に還元する取り組みの一環として、平成13年度から実施しています。バラエティーに富んだ100を超える講座を設定し、リクエストに応じて教員が県内各地の学校や公民館などに伺い、地域の皆さまに学習機会を提供いたします。

◆令和5年度 25講座



出前講座



出前講座

【公開講座】

地域の皆さまに生涯学習の機会を提供するため、公開講座を実施しています。令和5年度は4年ぶりに対面形式で開催しました。各学科・課程の教員2名ずつが自らの専門分野について講義を行いました。多くの方にご参加いただき、ご好評をいただきました。令和6年度以降もたくさんの方にご参加いただけるよう企画してまいります。

◆令和5年度 参加人数 延べ660名



公開講座



公開講座

【外国語教育研究所】

県内高校生を対象としたグローバル人材育成事業「明石塾」、英語スピーチコンテスト「明石杯」、高等学校連携英語授業などを実施しました。また海外事業を展開している県内企業でのビジネス英語研修、玉村町内小学校の英語授業支援、幅広い年齢層の方が研究員との英会話を楽しむ「グローバルカフェ」などに取り組みました。今後もこれらの活動をさらに充実させ、積極的に地域の皆さまに貢献してまいります。

◆令和5年度 高等学校連携英語授業 計15回(6校)
受講した高校生 延べ1,028名

◆令和5年度 グローバルカフェ 計22回(147名)



外国語教育研究所



外国語教育研究所

【群馬学センター】

群馬学センターでは、群馬県の歴史、社会や文化に関するセミナーや講演会の開催、書籍の刊行を行っています。年に2回開催している「群馬学連続シンポジウム」は令和5年度までで44回を数え、参加者は累計17,700人となっています。また、令和4年度からは史料の読解を通して地域の歴史と文化について学ぶ、「群馬学連続セミナー」を開講しています。群馬学センター資料室では、郷土史家萩原進氏の蔵書を中心に約6,500冊の群馬関連の図書を公開しており、一般の方でもご利用いただけます。

◆令和5年度 群馬学連続シンポジウム(2回開催) 参加者420名

◆令和5年度 第3期群馬学連続セミナー 参加者延べ325名



群馬学センター



群馬学センター

【地域日本語教育センター】

在住外国人が地域社会で生活する上で大きな問題となる日本語の学習・支援の拠点として、日本語教育を担う人材の育成、外国人への日本語学習の機会の提供、生活日本語の研究、関係機関との連携などの事業を行っています。

◆令和5年度 地域日本語教育講演会 参加者56名

◆令和5年度 日本語ボランティアスキルアップ研修(2回開催)
参加者62名



地域日本語教育センター



地域日本語教育センター

【審議会・委員等】

群馬県立高等学校学校評議員／群馬県地方労働審議会委員／群馬県市町村振興協会評議員／富岡市立美術館評議員／群馬県文化財保護審議会専門委員／群馬県男女共同参画推進委員会委員／群馬弁護士会資格審査会委員／前橋市社会教育委員／群馬県創業支援連携会議構成員／みどり市まち・ごと・ひと創生総合戦略検証委員会委員／玉村町公民館運営審議会副委員長／藤岡市文化財保存活用地域計画策定協議会委員／館林市文化財保存活用地域計画策定協議会委員／株式会社エフエム群馬放送番組審議会委員 など



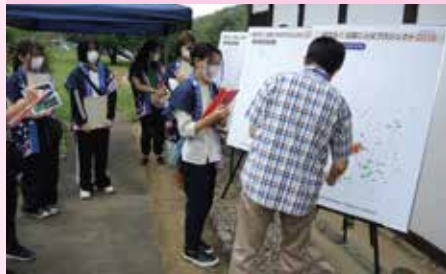
群馬県立女子大学 2023 地域・社会貢献活動 報告書

学生による取り組み

GUNMA PREFECTURAL WOMEN'S UNIVERSITY

国文学科

なるほど「絹ラボ!」研究助成 絹文化!お国ことば調査プロジェクト



世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」研究費助成を受けて、活動しています。その名も「絹ラボ」。私たちの研究テーマは、「絹文化に関する語彙の歴史と地理的変異」です。養蚕ことばの歴史と方言分布地図を重ね合わせて解釈しています。研究成果は、Webページで公開中!



国文学科・英米文化学科・美学美術史学科

近隣の中学校での 放課後学習教室の支援



地域の中学校などで運営されている放課後学習教室に教員を目指す学生が向向き、中学生の自学自習の支援を行っています。学生たちは中学生の皆さんの学びを支えながら、教えることの体験を通じて、「先生への道」を歩んでいます。

「学校現場でICT教育実践」 プロジェクト



学校現場では、GIGAスクール構想の下、電子黒板、タブレット等のICT(情報通信技術)機器が活用されています。教職課程では電子教科書などクラウド型授業支援アプリの活用法を学ぶとともに、地元教育委員会とタイアップして実際に小中学校で先生の補助や授業をすることでその実践能力向上を目指しています。

グローバル・コミュニケーション課程

玉村町立図書館ハロウィン 英語お話会にボランティアで参加



玉村町立図書館主催で年2回実施される「英語お話会」に、毎年国際コミュニケーション学部が学生がボランティアとして参加しています。英語の本を日本語に訳す作業も行っています。今年のハロウィン英語お話会は、1年生と4年生が交流する良い機会にもなりました。

グローバル社会システム課程

「コミュニティで学ぶSDGs」 県内高校生との連携授業



本学の学生たちが地域社会とともに「持続可能な開発目標(SDGs)」に関連した学習に取り組むアクティブ・ラーニング科目です。2022年度に引き続き、群馬県内の高校と連携して実施しています。大学生と高校生が協同して、SDGsに関する調査とプレゼンテーションを行いました。

大学公認サークル KDGs

企業とのコラボ「クリケット カレーパウダー」開発



KDGsは、昆虫食に対する認知の拡大を目的として、2022年7月頃からクリケットパウダーを使用した商品を考案し始めました。様々な企業にご協力いただき商品化を実現し、2023年11月に開催された錦野祭では、クリケットカレーパウダーを使用したスパイシーポテトを来場者にサンプルとして配布しました。

美学美術史学科

富岡市観光交流課との連携



富岡市役所にて「まちなかわくわくワークショップ2023」を開催。市役所では4つの造形遊びができるプログラムを用意し、来場された方は、学生とともに屋外ならではのワークショップを楽しみました。また、まちなかの文化財をめぐるクイズラリーも同時開催しました。

産学連携 巨大壁画完成! 富士スバル×女子大プロジェクト



2022年度から継続の富士スバル高崎店との産学連携。高崎店リニューアルに伴い、展示スペースの巨大な外壁(幅20m×高3m)を彩る壁画を依頼されました。絵画ゼミ生9名が、【地域との共生】というテーマをもとに群馬・高崎に関連したモチーフをデザインし、2023年度に完成しました。

群馬県内の美術館との連携



アートマネジメントゼミや演習の授業では、2013年より県内の美術館と連携し、学生が企画をした子供のための教育普及プログラムを実践しています。2023年度は近代美術館、館林美術館、富岡市立美術博物館、大川美術館の4館と連携し、それぞれの館では多くの家族連れが、学生と交流しながら造形活動を楽しんでいました。

産学連携 タムラデリカ×女子大プロジェクト



2014年、玉村町をイメージした看板をタムラデリカから依頼されデザインを制作しました。2023年に看板リニューアルの意向を受け、「麦秋の郷」「地域と共に明日の笑顔、美味しい小麦を創る」等のテーマのもと、小麦、うどん、家族をモチーフとして制作しました。

デザインマッチング



デザインゼミ生と県内企業とのマッチング事業を12年前から実施しています。2023年度は桐生の伝統技術が詰まったジャンパー「kirijum」をデザインしました。企業との複数回の打ち合わせを経てデザイン制作を進め、最終的には学生らしい斬新なアイデアを形にすることができました。

病院内アートプロジェクト (モザイクアート)



大学と病院とのアートによるコラボレーション「モザイクアート展」を開催しました。病院を訪れる利用者や職員の心が少しでも和らぐように、「癒し」をテーマとしたモザイクアートを病院内ギャラリーで展示しました。授業「デザイン4(実践)」の受講生である学生9名が考案しました。

様々なデザインによる地域連携



デザインゼミでは、デザインを通して、毎年様々な地域連携を行っています。2023年度は以下のデザインによる連携を行いました。
①日本看護学会教育チャラシ
②詐欺防止ステッカー
③玉村町「芸能発表会」「総合芸術展」ポスター・チャラシ

産学連携 JAF群馬支部 ×女子大プロジェクト2023



2023年度は以下の3事例について制作し、それぞれ県内に配布しました。①秋の全国交通安全運動期間に合わせ、交通マナー向上のための啓発のぼり旗のデザイン(実技ゼミ)。②群馬の魅力発信のためのチャラシ、ポスターのデザイン(デザインゼミ)。③自転車事故を減らすための反射キーホルダーに使用するデザイン制作(絵画ゼミ)。

ノベルティーだるま制作 たかさき雷舞フェスティバル



毎年10月に開催される群馬のよさこい祭り「たかさき雷舞フェスティバル」のダンスチームへ、実技(絵画・デザイン)ゼミ生19名がデザインした「チームの特徴をとり入れたオリジナルノベルティだるま」を、参加賞としてプレゼントしました。当日は全だるまを会場に飾り、来場者の注目を浴びていました。

第1回玉譚 ～もののけフェスティバル～



地域住民およびプロのアーティストなどと連携し、ライブイベントを企画・実施する授業「芸術の現場へ3」。2023年度は玉村八幡宮のご協力を頂き、「もののけ」がテーマのお祭りを企画しました。音楽やダンスなどのステージ、露店、ワークショップを組み合わせた不思議な世界で、大人から子供まで楽しんでいました。

中之条ビエンナーレで 情報発信やイベントの実施



アートマネジメントゼミでは「中之条ビエンナーレ2023」にて、2022年度に卒業したゼミ生が、「ロジャー・ウィリアムズ大学+レバニーズ・アメリカン大学」の作品のコラボレーターとしてパネル紹介されました。また、会期中には、現役のゼミ生が作品解説、来場者インタビューを会場で行うイベントを行いました。

復活 伊香保てぬぐいアート展



「伊香保てぬぐいアート展」を伊香保温泉で2011～19年まで8回実施し、そのうち25本が商品化されました。コロナ禍の影響もあり、数年間、実施されませんでした。2022年度、観光協会から依頼があり、実技(絵画・デザイン)ゼミ生39名が参加。各自制作したデザインを伊香保温泉石段街等で発表し、投票を予定しています。